

3・4・313 東通の整備

(登別市・継続)

現状と課題

本路線は、幌別地区における主要な放射道路であり、沿線では老朽化した市立図書館の建て替え計画や市立青少年体育館の改造計画により交通需要の増加が見込まれます。

また、本路線は、登別市の行政や商業・業務の中心地である幌別中央地区から、住宅地を北西部に縦貫する道路であり、利用する市民は、常盤町、中央町及び柏木町の住民が主体であり、幌別中央地区や公共施設等に向かうための唯一のアクセス道路となります。

また、児童生徒の通学路として指定されておりますが、道幅が狭く歩道もないため児童が歩行するには非常に危険であります。(特に近年宅地開発された北西部では、若年層を中心に住宅建設がなされ、行政人口の減少傾向が続く中において地区内人口を維持しており、年少人口率が他の地区よりも高く、高齢化人口率も低いことや、空地率が高く今後も住宅建設が見込まれることなどから、将来の沿道地区人口は一定に保たれると推測されます。)

以上のように、本路線は幌別地区内における重要な路線であり、将来的にも交通需要が増加する状況にあることから、道道に昇格し整備していただくことを要望します。



通学路としてたくさんの児童が歩行するが、歩道がなく道幅も狭いため大型車両が通行すると非常に危険である。

要望内容

都市計画道路東通の道道認定と整備

道道認定要望路線

全体計画

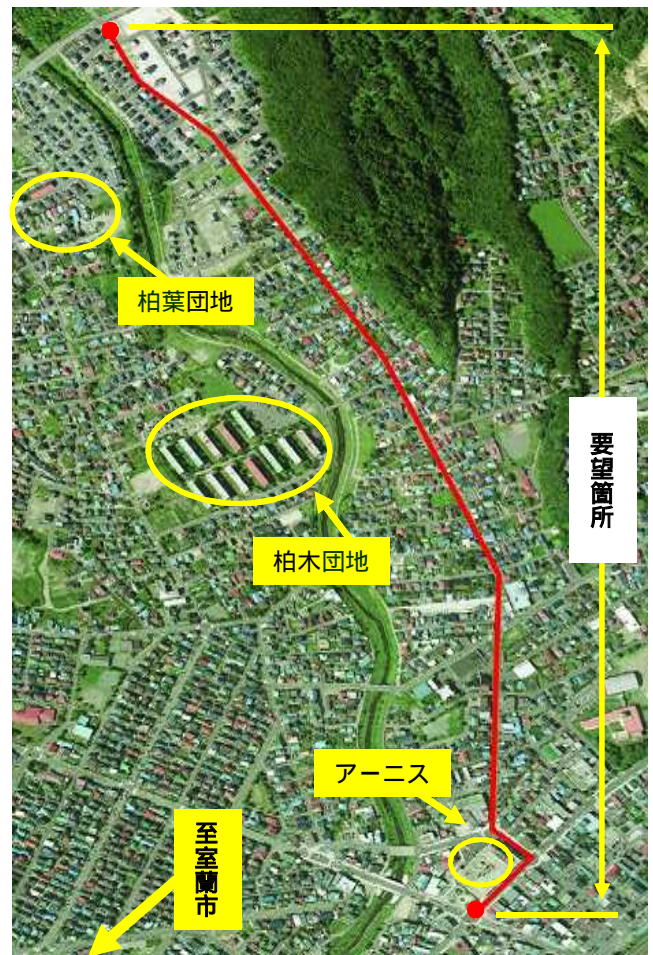
登別市中央町4丁目5番地先～

登別市常盤町4丁目48番地先

関係市町村道

市道 東通 延長約1.7km

計画幅員 16m



事業効果

道路の拡幅により、一般車両及び大型車両、緊急車両のスムーズな交通が図られる。歩道の整備が行われることにより通学する児童生徒の安全が確保され、より良い住民生活の充実が図られる。